

日本は例年になく厳しい冬との便りが届くこの頃ですが、南半球に位置するペルーは正に真夏となっており、週末になると近郊の海岸は海水浴客でごった返しています。気温こそ30度前後ですが、紫外線が思ったよりも強く、街の至るところに紫外線の警報器（5つのランプが信号機のように縦に並ぶもの）が設置され、コマーシャルや新聞でも日焼け止めクリームを塗るように警告が出されています。地元の人に言わせると、昔は普通に歩いていても簡単には日焼けしなかったとのこと。外出する際には子供共々、気をつけるようにしているこの頃です。

### ダカール・ラリーについて

昨年はラリーの到着地となった首都リマ。今年は1月5日にリマから出発ということもあり、年末から一部で盛り上がっていたダカール・ラリーです。その昔はパリダカと呼ばれ、フランスから西アフリカのダカールまで砂漠を横断するラリーとして有名でしたが、サハラ砂漠の治安の悪化等により、2009年から南米に移動してきて今年で5年目。ペルーは昨年1月から新たに開催国として既存のアルゼンチンやチリに加わることになりました。昨年はゴール地として選ばれたリマ市ですが、今年は出発地ということで、1月3&4日には、前行事としてリマ市内の海岸沿いで参加予定のトラックや4輪駆動車、バイク等が陳列されることになり、息子たちとイソイソと見物に出かけてきました。

お目当ては、新聞でも取り上げられた史上最多出場・最多連続完走記録を持つ菅原義正さん率いる日野チームスガワラ。「ダカールの祖父」と呼ばれ73歳の現役。日野のトラックで息子と共に参加しているとの情報を得て、海岸沿いのイベント会場に出かけてみました。会場までは、交通規制がされており途中から歩いて会場へ。しかしここも長蛇の行列で、会場内に入るのは諦めて、金網越しの中をのぞいて帰ってきました。日野のトラックもどこにあるか分からずじまいでしたが、各国から集った派手なバイクや4輪駆動車にトラックを見て楽しんできました。

ラリーの結果は、毎日地元の新聞に特集が載りなかなか盛り上がっていました。最終日の1月19日に全行程約8000キロあまりの競技をチリ・サンチアゴ市で終了し、日野チームは、排気量10リットル未満クラスで4連覇を達成<sup>1</sup>。来年も出場するのであれば、応援したいなあと思っています。でも砂漠を走ることによる3カ国での動植物の生態系への影響がどのくらいあるのか若干気になるところです。砂漠とはいえ、ひっそりと暮らしている昆虫や、海岸からの霧の水分を目当てに生きている植物も生息しているのですから。

---

<sup>1</sup> <http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20130121-00000045-rps-moto>



イギリスチームのトラック



ダカール・イベント会場



2013年のダカール・ルート

## 両親のペルー訪問

日本からはやはり長旅となることから、観光では簡単には来れないペルー。両親も興味を持って昨年から計画を立てていたものの、ツアーにするか個人で来るかなかなか決まらず、結局JTBのツアーで来ることになりました。日本の出発が連休明けの1月15日。まあ大丈夫だろうと思っていたところ、成田出発の前日14日に首都圏が大雪に見舞われ、もしや飛行機がキャンセルになるのではと、ドキドキしたものです。仙台市に住む弟が連絡を取ってくれ、こちらも成田空港の発着案内を見ながら、離陸が確認できたときには、ホッとしました。

参加者8名のツアー、合計9日間でナスカ地上絵からマチュピチュ遺跡そしてチチカカ湖まで訪問という豪華というか盛り沢山のツアーで、さていつ会えるのかと思っていましたが、両親だけ別行動で、ナスカ行きをキャンセルして1/16&17両日にリマ市内に滞在することになりました。賢治と太陽を連れてタクシーで宿泊先の空港ホテルに着いたのが朝9時前。20時間近い長旅にも拘らず、元気そうな両親を見てホッとしました。ここのアパートに着いたのが11時近く。子供たちは早速お土産やお年

玉をもらって大喜び。天気も良かったので、海沿いに市街地まで歩くことにしました。潮風を受けながら歩くのもいいものです。アメリカ大統領にちなんだケネディ公園まで歩き、早めに昼食を取り、午後1時半からは2階建てバスのツアーに参加しました。市内観光と Larco 博物館の訪問で約4時間。幸い薄曇だったので暑くならずすみました。夜は自宅でのんびり夕食を楽しんで、両親は早めに床につきました。

翌日は、お土産などの買い物を済ませ、海沿いの高級ホテルでランチバイキング。寿司バーがあり、握りやカップ巻きなども作ってくれます。もちろん、セビツェなどのペルー料理も豊富で、他の観光客やビジネスマンに混じって美味しく食べることが出来、満足。夕方は午後6時に空港ホテルに戻ることになっており、近所にある天野博物館で3時半から日本人の説明によるツアーに参加しました。全部で10名（ほぼ日本人）と大き目のグループながらも若い男性がインカ帝国やそれ以前のペルーの歴史を丁寧に説明してくれ、あっという間の1時間でした。入場料は取らないのですが、参加者は1階のお土産屋で購入することが暗黙の了解となっており、小物等を購入したのでした。

実はこのツアーで最高4000メートル近い標高まで向かう予定となっており、両親の高山病が心配でしたが、処方箋に基づいた薬を飲んでもらい、無事1月21日にチチカカ湖からリマに戻ってきました。深夜のフライトまで少し時間があつたので、子供たちを連れて空港ホテルで夕食を一緒にとって、訪ねた場所の印象を聞かせてもらいました。我々が未だ行ったことのないチチカカ湖をいつか訪ねたいものです。



海岸沿いの高台にて



2階建て観光バスに乗る

## 最後に

子供たちの学校も夏休み（2月下旬まで）に入り、年明け1月4日から午前中こそサマーキャンプに通っていますが、午後は暇を持て余すようになっています。

今年はヘビ年。実は年男です。この2013年が皆さんにとっても我々にとっても、どんな年になるのか気になるところです。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。